

いじめの理解・対応

2011前期勉強会4 5.21

教職センター 曾山和彦

1

本時の目標

いじめの基本理解・対応について知る

2

必ず手に入れ、目を通したい資料

「平成〇年度児童生徒の問題行動等
生徒指導上の諸問題に関する調査」

* 文部科学省HP、報道発表、年月日区分
から入手可能(12月)

3

いじめの定義

□ 自分より弱いものに対して一方的に、身体的、心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は学校の内外を問わないこととする。(文部省、1994)

変更

□ 当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は学校の内外を問わないこととする。(文部科学省、2006)

4

いじめ状況調査の変更

□ 平成18年度(2006)調査から、「発生件数」調査から「認知件数」調査へ変更

平成20年度認知件数
84,648件

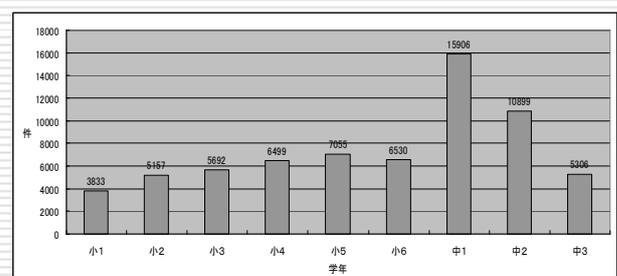


平成21年度認知件数
72,778件

1,000人あたり認知件数に30ポイント以上の差あり
最高は熊本(30.1件)、最小は和歌山(0.5件)
* 状態の善し悪しではない！

5

学年別いじめ認知件数(H21年度)



中1プロブレム;いじめが2倍に跳ね上がる!

いじめ認知件数比較(H21)

□ 学校種比較

小;34,766(前年比-14.8%) 中;32,111(前年比-12.7%) 高;5,642(前年比-16.3%) 特;259(前年比-16.2%)

□ 学年比較

中1(15,906)をピークにほぼ山型分布(小6からは倍増)

□ 性別比較

各学校種とも男子の方が女子よりも認知件数が多い

7

いじめの態様

- 全校種において一番多いのは、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」であり、全体の64.7%を占める。

この時点での対応が重要(割れ窓理論)

- 「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」は高校が1%と、多くなる。

8

いじめの構造理論

□ 4層構造(森田、1986)

- ・加害者
- ・被害者
- ・観衆～いじめを積極的に是認
- ・傍観者～いじめを暗黙支持、促進
- * 日本のいじめは中学生になると仲裁者が減り、傍観者が増える。

9

いじめの背景理論

- 欲求不満＝攻撃説
- 社会的学習理論
- 役割理論
- シブリング・ライバルリ
- プライバタイゼーション＝私事化

10

いじめられる子も悪い？

「だっていじめられるあいつも悪いんだよ。暗いし、人をイライラさせるし、何を言われても黙ったままだし…」と、自分のいじめを「正当化」する生徒には、何と言う？

* 残念ながら上記のように考える教師もいる

11

駐輪場の自転車盗難の例

～内藤先生の著書より～

鍵をかけ忘れた自転車を盗まれたあなた

- ・「鍵をかけないあなたが悪い」と言われ納得する？
- ・どう考えても悪いのは犯人。あなたは悪くない！
- ・盗まれたのは「鍵をかけなかったから(理由)」だが、それで、「あなたが悪い」とか「あなたの責任」とか、言われて納得する？
- ・理由があっても、「悪い＝責任あり」とはならない

どんなに理由があっても、いじめの正当化はできない

12

いじめへの基本対応

- 初期対応重視; 小さな嫌がらせ(無視、悪口、物隠し等)を見逃さない
- 被害者の絶対安全確保; 「あなたは悪くない」宣言
- 加害者への徹底指導; 「社会で許されないことは学校でも許されない」ことの指導
- 校内共通指導体制; 指導観統一
- 予防対応重視; 人間関係づくり

13

初期対応重視

- いじめの第一歩として「無視(シカト)」が多い。次に、「物隠し」、「わざとぶつかる」等。小さな嫌がらせが次第にエスカレートして、ひどいいじめになっていく

問題の芽が小さいうちに対処する
→ もう一度、ブロークン・ウィンドウ(割れ窓)理論

14

被害者の絶対安全確保

- 安全を確保する(校内、家庭におけるきめ細かな行動観察。状況によっては保健室等の安全な学びの場の確保等)
- 共感の姿勢を示す(「あなたは悪くない」と伝え、自信をつけていく)
- 本人の希望を確認する

被害者に、関係づくりの不器用さがある場合、落ち着いた頃を見計らって、関係づくりのスキル育成支援(ソーシャル・スキルトレーニング等)を行う。

16

加害者への徹底指導

- 情報収集する
- 「社会で許されないことは学校でも許されない。いじめは犯罪である」ことを教える
- 被害者への安全確保が脅かされる場合、出席停止、別室指導導入を伝える
(追指導が入るため人権侵害とはならない)
処罰も含めた徹底指導の中に心のケアも必要

16

校内共通指導体制

- 子ども対応の確認。「いじめは許さない」宣言。「いじめはいじめる子どもが悪い」という指導観の確認
- 校内パトロール実施(実践例; 「君を守り隊」)
- 保護者対応の確認。いじめが発生した際の対応窓口等の確認

17

予防対応重視

- 観衆・傍観者が生まれるのは、自己防衛意識が働くから。子ども同士のつながりが強まれば、いじめのない雰囲気づくりが学級に生まれる
- 重要なことは関係づくり
「いじめゼロ」を実現した公立中学校が現在中心に取り入れているのがエンカウンター

18

いじめを見つけたら

～子どもたちに教えておきたいこと～

- 一人で仲裁するな。複数で仲裁せよ
(義家先生の言葉)
- 本当に必要なのは「通報者」。いじめを見つけたら大人や警察に通報しよう
(内藤先生の言葉)

19

関係づくりにより、いじめの芽を摘む

- 鹿嶋真弓先生の実践(NHKプロフェッショナル)
学級内に生徒同士のネットワークがあれば、いじめが入り込む隙はない。

子どもたちに何を「仕掛けて」いくのか
教師の腕の見せどころ
私はエンカウンター等を仕掛ける。
さて、君たちなら…

20

参考文献

- いじめ、森田洋司・清水賢二、金子書房
- 君を守りたい、中嶋博行、朝日新聞社
- いじめの構造、森口朗、新潮社
- 教室の悪魔、山脇由貴子、ポプラ社
- いじめの直し方、内藤朝雄・荻上チキ

21

今日のPOCKET

いじめ対応の「漢方薬」
ソーシャルスキルと自尊感情の育成

22